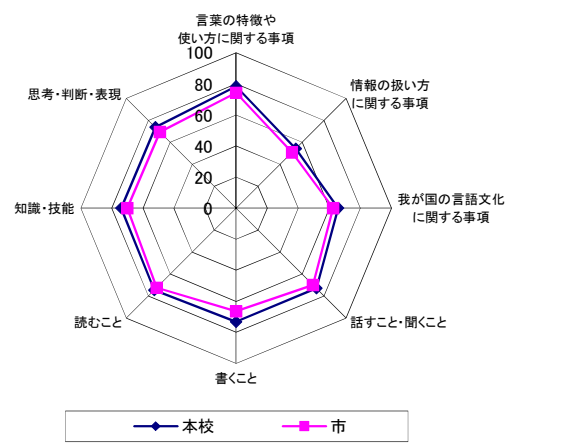


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	54.2	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	65.6	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	73.0	69.9	69.7
	書くこと	73.2	66.4	64.6
	読むこと	74.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	74.0	70.1	70.0
	思考・判断・表現	73.7	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

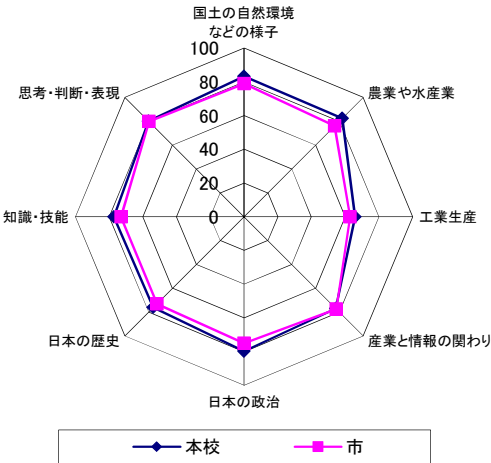
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○「第5, 6学年に配当されている漢字を正しく書いている」の平均正答率はほぼ90%以上で、市の正答率を上回っているが、「限る」の書きは65.6%であった。 ●「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている」の平均正答率は34.4%で、市の正答率を2.3ポイント下回った。 ●「尊敬語について理解し、正しく使っている」の平均正答率は38.9%で、市の正答率を12.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ドリル学習や毎週の漢字テストの成果が表れていると思われる。習得した漢字が文脈に沿って適切に使えるように、さまざまな言語活動において指導し、言葉の定着を図っていく。 ・プリントや教科書の例題を使って尊敬語を復習し、場面に応じた敬語の使い分けができるよう指導を繰り返していく。
情報の扱い方 に関する事項	○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」の平均正答率は80.9%で、市の平均正答率を5.7ポイント上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書いている」の平均正答率は市の正答率を2ポイント上回っているが、27.5%であった。	・国語だけでなく社会や総合的な学習の時間でも、グラフや新聞記事などの資料から必要な情報を読み取る活動を積極的に取り入れていく。 ・教科横断的に資料から読み取ったことを文章にまとめる学習に取り組み、情報を簡潔に整理したり活用したりする力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化 に関する事項	○「漢字の由来について理解している」の平均正答率は65.6%で、市の正答率を3.2ポイント上回った。	・親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、音読を通して親しませる。 ・古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○「計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉えている」の平均正答率は90.1%で、市の正答率を4.0ポイント上回った。 ●「互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめている」の平均正答率は、市の正答率を5.9ポイント上回っているが、31.3%であった。	・スピーチや授業中の発言など、友達や教師の話聞く際には、話し手の意図を捉えながら聞くよう指導していくとともに、疑問に思ったことについては、自ら質問できるように指導していく。 ・児童会活動や学級活動などの話し合い活動を通して、意見をまとめる力や会を進行する力を身に付けさせるようにする。
書くこと	○「指定された長さで文章を書いている」の平均正答率は82.4%で、市の正答率を10.4ポイント上回った。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の平均正答率は80.2%で、市の正答率を11ポイント上回った。 ●「表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している」の平均正答率は87.8%で、市の正答率を3ポイント下回った。	・日常の各場面において、必要な分量を書いて慣れさせたり、文章構成を事前に考えたりするなどして、一定の文字数を書けるように経験を積み重ねていく。 ・自分の意見と理由を明確にして書くことについて授業中指導してきたが、表やグラフを用いるなど、工夫して自分の考えを書く力が身に付くように指導していく。
読むこと	○「登場人物の行動について、描写を基に捉えている」の平均正答率は88.5%で、市の正答率を4.3ポイント上回った。 ○「文章の論の進め方を捉えている」の平均正答率は77.9%で、市の正答率を2.9ポイント上回った。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」の平均正答率は78.6%で、市の正答率を1.1ポイント下回った。 ●「文章全体の構成を捉えている」の平均正答率は市の正答率を1.8ポイント上回っているが、55.0%であった。	・説明文では、全体の構成を捉え、段落ごとに正確に内容を読み取るような指導を繰り返していく。 ・文章を読むことについては、おおむねできているが、登場人物の心情や様子を描写を基に捉えることができるようにするために、語句の意味を正確に理解させたり、登場人物の台詞や行動、情景描写を細かく読み取らせたりしていく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	83.2	78.9	75.4
	農業や水産業	82.4	76.1	71.2
	工業生産	65.9	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.1	77.6	59.7
	日本の政治	79.8	75.0	79.3
	日本の歴史	76.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	77.3	73.0	71.4
	思考・判断・表現	80.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

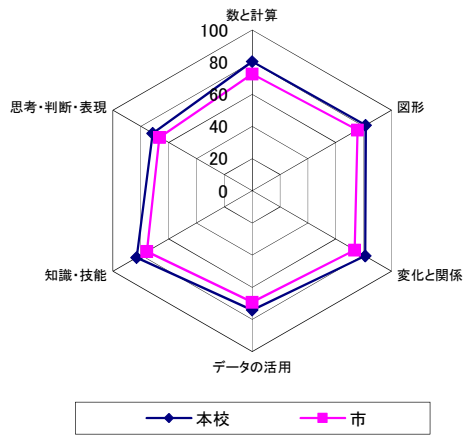
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「日本の周辺の海洋名について理解している」の平均正答率は90.8%で、市の正答率を3.5ポイント上回った。 ○「中国の国旗と位置について理解している」の平均正答率は95.4%で、市の正答率を5.2ポイント上回った。 ●「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っている」の平均正答率は、市の正答率を4.5ポイント上回っているが、54.2%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の自然環境などの様子について、概ね理解できている。しかし、日本の主な地形の名称と位置についての理解がまだ十分ではない児童もいる。地図を積極的に活用して、日本の地形に興味をもたせるとともに理解を深めさせていきたい。
農業や水産業	○「都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめている」の平均正答率は74.8%で、市の正答率を13.1ポイント上回った。 ○「日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取っている」の平均正答率は87.8%で、市の正答率を4.5ポイント上回った。	・農業や水産業について理解が深まっていることが分かる。日本の食糧生産をめぐる課題は農業人口の減少以外にもたくさんあることから、食糧を安定して確保するために何ができるか、折に触れて指導していきたい。
工業生産	○「日本の鉱山資源の輸入について、資料を読み取っている」の平均正答率は68.7%で、市の正答率を3.6ポイント上回った。 ●「大工場と中小工場の理解をもとに、資料を読み取っている」の平均正答率は、市の正答率を5.2ポイント上回っているが、58.0%であった。	・大工場と中小工場の働く人、生産額、工場数の違いについての理解が不十分である。それぞれの工場の特色を復習し、日本の工業生産の特色について理解を深めさせていきたい。
産業と情報の関わり	○「インターネットを利用するときの注意点について理解している」の平均正答率は90.1%で、市の正答率を1.2ポイント上回った。 ●「資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現している」の平均正答率は64.1%で、市の正答率を2.1ポイント下回っている。	・インターネットを利用するときの注意点について、社会の授業を始め、学級活動や道徳の授業を活用して今後も指導を続けていく。 ・NHKの放送資料や5Gを活用した新しい取組についての新聞記事やホームページを紹介することで、暮らしの中で情報がどのように活用されているのかについて、興味をもたせるように働きかけていきたい。
日本の政治	○「日本国憲法の三原則について理解している」の平均正答率は82.4%で、市の正答率を13ポイント上回った。 ○「国会の仕組みについて理解している」の平均正答率は81.7%で、市の正答率を10.5ポイント上回った。 ●「非核三原則について理解している」では76.3%で、市の正答率を3.6ポイント下回った。	・日本国憲法の三原則がそれぞれくらしの中でどのように生かされているのか、テレビや新聞記事等を活用し、実生活の中から興味をもって学ぶことができよう支援していきたい。 ・「もたない、つくらない、もちこませない」という非核三原則のそれぞれの意味や、非核三原則を掲げている背景を考えさせる。
日本の歴史	○「元寇についての理解をもとに、資料を読み取っている」の平均正答率は80.9%で、市の正答率を5.7ポイント上回った。 ○「武家諸法度について理解している」の平均正答率は61.8%で、市の正答率を7.4ポイント上回った。 ●「飛鳥時代の出来事を理解している」の平均正答率は55.7%で、市の正答率を3.1ポイント下回った。	・飛鳥時代について理解が浅い児童がいるので、NHKの放送資料などを活用し、どのような出来事が起こったのか理解させたい。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.4	72.6	73.1
	図形	81.5	75.7	74.7
	変化と関係	81.2	73.6	66.1
	データの活用	74.2	69.2	70.7
観点別	知識・技能	83.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	71.3	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

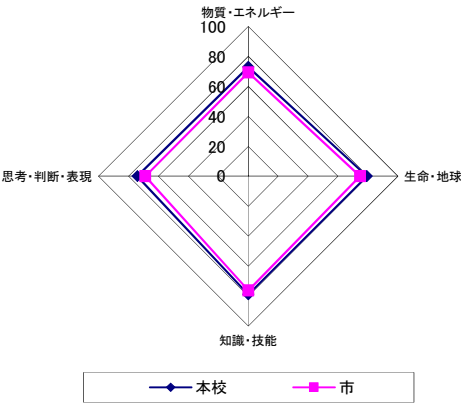
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる」の平均正答率は83.2%で、市の正答率を18.7ポイント上回った。 ○2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求めることができる」の平均正答率は77.1%で、市の正答率を15.2ポイント上回った。 ●「整数×小数と、整数×分数の計算に共通するかけ算の性質を判断している」の平均正答率は57.3%で、市の正答率を3.9ポイント下回った。	・計算のきまり(乗法のきまり、除法のきまり、交換のきまり、分配のきまり、結合のきまり)を確認する。さらに、計算のきまりが整数や小数、分数でも成り立つことを具体的な数字を使って確かめる場面を設定する。 ・整数だけでなく小数や分数の四則計算についても、正確に速く計算することができるように計算練習の場を設け支援していく。
図形	○「高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める式を理解している」の平均正答率は81.7%で、市の正答率を13.1ポイント上回った。 ○「合同な三角形を作図することができる」の平均正答率は93.1%で、市の正答率を6.6ポイント上回った。 ●「線対称な図形の対応する点を見つけることができる」の平均正答率は、市の正答率を0.7ポイント上回っているが49.6%であった。	・線対称な図形、点対称な図形の性質について確認する。対応する点を見つけたら作図をしたりするには、補助線をかき加えることで、性質についての理解を深められるようにする。 ・図形の学習の際には、角度を変えても捉えることができるように、回したり折り重ねたりする体験を取り入れて、図形の見方を広げられるようにする。
変化と関係	○「表から面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察している」の平均正答率は82.4%で、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ○「半分が何%であるかを理解している」の平均正答率は94.7%で、市の正答率を4.1ポイント上回った。 ●「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができる」の平均正答率は、市の正答率を9.5ポイント上回っているが66.4%であった。	・具体的な問題場面を使って、速さの単位の関係を理解できるようにする。また、1時間＝60分、1分間＝60秒であることから、時速、分速、秒速の関係が60をかけたり割ったりして成立していることを、再度確認させる。
データの活用	○「度数分布表を完成させることができる」の平均正答率は89.3%で、市の正答率を1.7ポイント上回った。 ●「円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求めることができる」の平均正答率は、市の正答率を9.4ポイント上回っているが、48.9%であった。 ●「代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明している」の平均正答率は、市の正答率を17.5ポイント上回っているが47.3%であった。	・基準量、比較量、割合の意味や関係を確認する。また、円グラフの数値だけでなく、項目ごとの関連にも着目させるようにすることで、円グラフや割合についての理解が確かなものとなるようにする。 ・平均値や中央値などの代表値の意味を確認する。さらに、身近なデータを用いて、自分の考えを代表値を使って説明する場面を設定する。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.0	69.3	65.7
	生命・地球	79.2	74.7	77.8
観点別	知識・技能	79.0	76.2	76.4
	思考・判断・表現	74.1	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「ふりこの実験を計画することができる」の平均正答率は71.0%で、市の正答率を13.6ポイント上回った。 ○「ろ過のしかたで、正しくないところを指摘できる」の平均正答率は74.8%で、市の正答率を10.6ポイント上回った。 ○「電磁石の極と方位磁石の指す向きを指摘できる」の平均正答率は65.6%で、市の正答率を9.8ポイント上回った。 ●「水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないこと理解している」の平均正答率は73.3%で、市の正答率を4.6ポイント下回った。 ●「ランタンの上の穴のはたらきを調べるために比較する実験を指摘できる」の平均正答率は42.0%で、市の正答率をやや下回った。 ●「ふりこの1往復する時間の求め方を理解している」の平均正答率は49.6%で、市の正答率を2.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・結果を踏まえて考察していけるように、実験の前後の変化の様子をタブレット等を活用して映像として残し、活用できるようにする。 ・振り子の1往復する時間の求め方は、小数の計算になるので繰り返し練習問題を解きながら定着を図る。
生命・地球	○「呼吸のはたらきにより空気と呼吸とで成分がどのように変わるかを理解している」の平均正答率は77.1%で、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ○「日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんをつくるはたらきの観点から記述できる」の平均正答率は58.8%で、市の正答率を9.6ポイント上回った。 ○「いすに座った人を地球に、電灯を太陽に見立てていることを指摘できる」の平均正答率は86.3%で、市の正答率を5.0ポイント上回った。	・生物がとり入れたり出したりする気体の流れを、ものの燃え方・植物の呼吸・光合成や、酸素と二酸化炭素など気体の流れと関係付けて考えられるように単元同士を関連付けた授業を行うようにする。

宇都宮市立富士見小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施、ステップアップシートの活用	・6年生において、漢字の読み書き、数の計算領域において、市の正答率を上回っている。 ・6年生の各教科の基礎内容の正答率が、市の正答率を上回っている。
・望ましい学習習慣の確立	・「家庭学習のすすめ」による家庭学習内容の提示と家庭学習強化週間の実施及び家庭との連携協力の強化 ・学年に応じた宿題の出し方の工夫	・「普段、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか(平日)」の設問で、学校が設定している目標時間を、全ての学年で80%以上が達成している。 ・宿題については、全ての学年で90%以上の児童がきちんと取り組んでいる。しかし、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、3～6年生において63～91%とばらつきがあった。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・各教科の見方・考え方を働かせる教師のコーディネート工夫 ・自分の思いや考えを表出させるための支援 ・多くの児童を参加させ、考えや表現を広げ深める対話的活動の設定 ・学びを実感することのできる振り返りの工夫	・「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は1, 3, 5年生で90%以上、2, 4, 6年生で80%以上である。 ・「グループの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は全ての学年で80%以上である。 ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合は、66～95%とばらつきがあった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・6年生の国語「書くこと」の領域では、平均正答率が55.4%であり、市や国の正答率に比べて下回っている。無回答の割合も市や国の割合よりも高い。4, 5年生においても、県の正答率は上回っているものの、無回答の割合が10%以上であった。全学年で、自分の考えをノートに書く活動や目的や意図に応じて文章を書く機会を多く取り入れるなどして、自分の考えとそれを支える根拠を分かりやすく表現する力を身に付けさせたい。

・宿題については、全ての学年で90%以上の児童がきちんと取り組めており、望ましい学習習慣が身に付きつつあると考えられる。しかし、「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、学年によってばらつきがあったことから、次年度も「家庭学習のすすめ」を活用し、発達段階に合わせた家庭学習に自ら取り組めるよう指導していきたい。